

令和8年3月30日

## プロポーザル方式の実施結果について

下記の業務に係るプロポーザルの実施結果について、次のとおり公表します。

1. 業務名 令和8年度加賀の国インスタグラム運用代行業務
2. 実施形式 公募型プロポーザル
3. 審査期間 令和8年3月23日（月）から26日（木）まで
4. 参加者数 2社
5. 特定された受託候補者名 株式会社大和印刷社

### 6. 審査結果

企画提案書の提出のあった2事業者に対して、審査を行い、最も多く第1位の順位を獲得した事業者を当該委託の受託候補者として特定した。

項目	A社	B社
第1位獲得数	6	0
第2位獲得数	0	6
評価得点の合計点	510点	340点
順位	第1位	第2位

(審査項目別評価得点)

審査項目・配点	A社	B社
提案内容 (60点×6人)	307.50点	212.50点
経費 (10点×6人)	47.50点	30.00点
業務遂行の確実性 (30点×6人)	155.00点	97.50点
合計 (600点満点)	510.00点	340.00点

(審査項目及び評価項目)

審査項目	評価項目	配点
1 提案内容	(1)目的を理解した提案となっているか	10
	(2)提案に実現性があり十分な効果を見込めるか	30
	(3)効果的な取り組みや工夫があるか	20
2 経費	(1)提案と見積内容に整合性があり妥当か	10

3業務遂行 の確実性	(1)過去に類似業務の受託実績はあるか	10
	(2)実施の体制・人員・スケジュールは妥当か	10
	(3)企画書が分かり易く整理され、疑問点はないか	10
合計		100

(審査委員からの評価コメント)

事業者	主な評価内容
A社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットとなるフォロワーや新規ユーザーの動向、インスタグラムのアルゴリズムなどを良く分析している。</li> <li>・目に留まりやすいサムネイルデザインなど、投稿内容に工夫を凝らし、単に投稿するのではなく、実際にユーザーに行動を起こしてもらえるまでを目標としている。</li> <li>・単なるビュー数の増加ではなく、フォロワーとのコミュニケーションを重視し、ファンの醸成につなげる取組が魅力的であった。</li> <li>・地元民向けの旬な情報や映えを意識した投稿内容の発信は、地元住民のフォロワー獲得に効果的である。</li> <li>・投稿記事のデザインや文章は、加賀の国に関心の薄い層へのアプローチに効果的である。</li> <li>・オール加賀所属の市町の垣根を越えた企画投稿という着眼点が素晴らしい。</li> <li>・撮影・執筆において高いレベルが感じられ、安心感がある。</li> <li>・サムネイルのデザインやレイアウトが大変魅力的であり、テーマもユーザーの興味を引くものとなっている。</li> <li>・インフルエンサーとの共同投稿や広告出稿により、幅広い層へのリーチが見込まれる提案となっている。</li> <li>・数値集計やレポートが細かく分析されている点が評価できる。</li> <li>・地元ライターを活かしつつ、運用事業者側でしっかり数値分析・ディレクションを行う体制が整っている。</li> <li>・広域事業を理解し、地域特性を踏まえた本質的課題を抽出しており、理解度の高さが伺える。</li> <li>・ここにしかない伝統工芸や食文化などの魅力を発信することに重点を置いていないため、県外からの誘客につながるファンの獲得は難しい。</li> <li>・県外からの誘客をより意識した提案が欲しい。各市町を結ぶ宿泊・観光コースの提案など。(金沢から足を伸ばさず、小松空港から、北陸道利用等)</li> </ul>

B社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務運営体制は充実している。</li> <li>・データ分析ツールの活用については、効果的な情報発信につながるものとして興味深い提案であった。</li> <li>・独自の情報網を生かし、行政主体の Instagram ではカバーできない広範囲の情報発信が期待できる。</li> <li>・イラストを使用して加賀の國の魅力を深掘する投稿は、従来の映えを意識した Instagram の投稿と異なり、誘客に至るコアなファンに響く内容である。</li> <li>・プレゼントキャンペーンや人流データの分析等、記事投稿以外の要素が業務に含まれている点が評価できる。</li> <li>・構成市町の分析がオール加賀に特化したものではなく一般的な事項である。</li> <li>・Instagram 利用層が求める映えを意識した投稿に重点を置いていないため、これまで獲得したフォロワーが離れる可能性がある。</li> <li>・求めるユーザーは子育て世代以降であるため、マンガ・アニメの活用は現ユーザーとの親和性が低く思える。</li> <li>・マンガやアニメの活用については、これまでの投稿イメージとの乖離が大きいと感じた。Instagram においては過度にアニメ色を強める必要はないと考える。</li> <li>・マンガ・アニメを活用した提案があり興味を持ったが、運用時のイメージ画がなく残念。</li> <li>・具体的な年間投稿数やマンガ・アニメの活用イメージについて資料に掲載があると良かった。</li> <li>・アカウント運用・企画費が他社より高額。</li> <li>・現在長期休業中の店舗を掲載候補としている等、リサーチ力にやや不安を感じた。</li> <li>・現状と課題について専門的な知見が十分示されていない</li> </ul>
----	---

7. 実施担当 加賀地域連携推進会議事務局（小松市国際文化交流部観光交流課）

（公表期間：上記公表の日から1年間）